

国民の国語に対する高揚と国語を大切にす精神の育成を図るため、文化庁から送付されたテープです。

・形式:VHS

・時間:15分

・対象:学校教育のホームルームの時間、PTA、社会教育の家庭教育学級、青年学級

NO	題名	内容	配給
1	言葉のしつけ	言葉のしつけは、幼児から小学校の低学年頃までに、力を入れて行うことが望ましいことを理解し、適切な指導をするはどのようにしたらよいかを考える。	S55
2	敬語 —謙讓語—	誤用等が目立ち、社会人の関心も特に高い謙讓語を中心に取り上げ、その誤用例等を通して望ましい人間関係を作る上で果たす謙讓語の役割を考える。	S55
3	生きたあいさつ	あいさつは、人間関係の場で敬意ある親愛の情を表し、一般に多少とも改まった意識のもとに使われる言語活動であると言われているが、この言語活動をそれぞれの場にふさわしい、生きたものにするにはどうしたらよいかを考える。	S55
4	適切な表現 —気がおける 気がおけない—	日常生活において交わす会話において適切な表現を心掛けるべきことは誰にも異論のないところだが、ある具体的な場面においてどのように表現したらよいかということになると、その判断は大変むずかしい。ここでは、これらの問題のうち、重言といわれるものと、慣用的な表現を取り上げて具体的に考える。	S56
5	敬語 —尊敬語—	今日の青少年は、丁寧語にはなじんでいるが、謙讓語や尊敬語を使う機会が少なく社会へ出て苦労することが多いという。ここでは、尊敬語を取り上げ、その誤用例を通して、望ましい人間関係を作る上で果たす敬語の役割を考える。	S56
6	はっきりした発音	我々の意志・情報などの伝達や理解を円滑にするためには、発声・発音に関する事柄をよく知り身につける必要がある。ここでは、これらの事柄のうち、発声と発音に関する基礎的な知識と、無理のない発声・発音に関する知識と、無理のない発声・はっきりした発音の仕方とを中心に扱う。	S56
7	聞き上手	言葉の行き違いは、話し方に問題がある場合もあるが、聞き方に問題がある場合も少なくない。この点を反省し、相手の立場を考え、相手の話を正確に聞くことが、円滑なコミュニケーションの実現に、いかに大切であるかを考えている。	S57
8	敬語 —丁寧語—	丁寧語は尊敬語や謙讓語に比べて、青少年も日常比較的使い慣れているといわれているが、適切でない使い方をする場合がある。丁寧語を取り上げ、その誤用例などを通して、望ましい人間関係を作る上で果たす丁寧語の役割を考える	S57
9	幼児の言葉のしつけ —0歳から3歳ごろまで—	就学以前における言葉のしつけの重要性に鑑み、0歳から3歳頃までの幼児を中心に、言葉の発達と特徴、年齢に相応した言葉のしつけ方を中心に考える。	S57
10	敬語を適切に	その場その場の人間関係に応じた敬語を用いることがいかに大切であるかを反省し、「敬語の適切な使い方」という面に重点をおいて製作される。	S58
11	話し方をわかりやすく	ここでは、一人一人が改まった場面において何人かの相手にまとまった事柄を話す場合を取り上げ、分かりやすい話し方をするにはどうしたらよいか、話しの組立方や進め方の面から考える。	S58
12	正確な用語で	相互の意志・情報などの伝達や理解を円滑にするためには、曖昧な用語を避けできるだけ正確な用語を選ぶ必要がある。ここでは、意味・用法にずれのあるものや、慣用句の誤用を主に取り上げていく。	S58
13	実りのある話し合い —会合の場合を中心に—	話し合いの場のうち、特に会合の場を中心に取り上げ、話し合いを円滑に、しかも実り豊かなものにするための基本的な心掛けをいくつか考える。	S59
14	くらしの中の音声訓練 —発声を中心に—	日頃の暮らしの中で、相手にわかってもらうために使う音声を今よりももう少し明瞭にし、美しくすることを心掛けたい。そのためには、日頃の暮らしの中でいろいろな機会をとりえて積極的に訓練するようにしたい。ここでは、発声の訓練の仕方を中心に制作される。	S59
15	幼児の言葉のしつけ —3歳から5・6歳まで—	幼児期における言葉のしつけは、大変重要であると言われている。そこで、幼児期の後期(主に4・5歳ごろ)を対象として、家庭での心構えとしつけ方の問題を扱っている。	S59

16	分かりやすい用語で	相互の意志・情報などの伝達や理解を円滑にするためには、分かりやすい用語を選び、聞き手の負担を軽くしようとする配慮が必要である。ここでは、漢語や専門用語、略語などの例を取り上げ、分かりやすい用語を心掛けることの必要性・重要性について考える。	S60
17	電話の言葉づかい	電話で話す際には、相手の表情や態度による反応が見えないだけに、言葉づかいや声の出し方に慎重な配慮が望まれる。ここでは、不適切な言葉づかい、聞き取りにくい発音の例を中心に上げ、電話によりコミュニケーションをより美しく豊かなものとするよう作られる。	S60
18	くらしの中の音声訓練 —母音を中心に—	日頃の暮らしの中で、相手に分かってもらうために使う発声を今よりも、もう少し明瞭にし、美しくすることを心掛けたい。そのためには、日頃の暮らしの中で、いろいろな機会をとらえて積極的に訓練するようにしたい。ここでは、こうした目的に役立つために制作されたが、発音のうち、特に母音の発声の訓練の仕方を中心に作られる。	S60
19	ことばの国の裁判 —誤解を招かない表現—		S61
20	美しい日本語 楽しい語源		S61
21	くらしの中の音声訓練 —子音を中心に—		S61
22	ことばはパスワーク —頼む時・断る時—	人にもものを頼んだり断ったりするときには、どのような言葉遣いでどんなふうに表現すればよいのだろうか。日常、だれもが経験する頼み方・断り方の場面を通じて、円滑なコミュニケーションを考えていく。	S62
23	美しい日本語 楽しい語源 —その2—	何気なく聞いたり話したりしている言葉は、いつごろから使われていたのか。そして、そもそもその意味はどんなところにあつたのか。和語・漢語の語誌、ことわざの由来等にも触れながら、日本語の世界への関心を高める。	S62
24	朗読の魅力	文章を声に出して正確にしっかり読むということは、聞き手にとって分かりやすく快いだけでなく、読み手自身にも意味がある。日本語のリズム抑揚、間のとり方などが身につく、文章全体が整理・把握されて内容の理解が深められる	S62
25	花か華か —家庭での話し合い—	現実的、実際的なコミュニケーションの構成や流れを通して、話し方を知らないために黙っていることのないよう、すべての人が意見を言い合い、お互いに相手を理解し、納得のいく結論を見いだすための方法を考える。	H1
26	類義語 —豊かな表現のために—	「運動」か「スポーツ」かなど、同じ事柄を表すにもいくつかの言葉がある。「くたびれる」と「疲れる」なども似ているようで違う。このような類義語の広がりや意味用法の重なり、ずれについて考え、適切な使い方を考える。	H1
27	朗読の魅力 —その2—	あるまとまった内容をもつ長い文章を、テキストを見ていない聞き手にも十分理解してもらえるように読むための方法や、技術的なポイントを示す。	H1
28	適切な言葉遣い —敬語を中心に—	最近耳目にふれる敬語の誤用例や、言葉遣いの問題全般を視野にいれ、より適切な言い方を示しながら、敬語を含めた言葉遣いについて考え、意識を高める	H2
29	くらしの中の音声 —談話を中心に—	言語は本来、音声の基本である。どんなに伝達のための機器が発達しても、肉声による会話の大切さは変わらない。ここでは、職場や家庭、学校などで行われる日常の談話における音声言語の問題を考える。	H2
30	慣用的な表現	日常耳目に触れやすい慣用的な表現を取り上げ、適切で効果的な用法を学びながら表現の豊かさや、言葉の意味について考える。	H3
31	くらしの中の音声 —せりふの練習—	演劇におけるせりふの練習の一端を取り上げ、姿勢、発声、イントネーション間の取り方、相手の言葉を聞くときの態度などを学ぶことで、言葉に対する意識や感覚をみがき、一々の言葉のやりとりを大切にす週間を身につけるなど、日常会話に応用する。	H3
32	言葉と環境	伝えたい事柄を正確にしかも相手や場面にあわしい表現で話す能力はどうすれば身に付くか。この作品では、「中学生の言語環境としての家庭」に焦点を絞って考える。	H4

33	言葉遊び	この作品のねらいは、言葉遊びを通じて、語の音や意味、使い方などについて語感を鋭敏にすること、語構成や語形を再確認し、同音異義語や類義語を集め語彙を拡充すること、何よりも言葉を使うことのおもしろさを体験して言語感覚をみがき、言語生活を豊かにすることなどである。	H4
34	こころを結ぶ言葉 —豊かなコミュニケーション—		H6
35	「あいうえお」と「いろは」		H6
36	論理的な話し方 —ディベートを活用して—	国際化時代と言われる現代、論理的に主張する、客観的な事実と主観的な意見を意識して延べ分けるといった能力が求められるようになってきている。そこで、論理的な話し方を身につけるための一つの方法として、ディベートという一種の競技を紹介し、その取り組みを提案する。	H7
37	やまとことばの世界 —その豊かな想像力—	現代の生活では、とかく漢語や外来語による機能的、効率的表現が求められているが、今一度やまとことばの世界に注目し、同じ内容を伝えるにも漢語と和語でどのように表現効果が異なるかを考える。	H7
38	自己紹介から始まるあなたと私	いろいろな自己紹介のパターンを紹介し、自己紹介することによって、その後の人間関係がどのように築かれていくかを考える。	H8
39	あいさつが心を結ぶ	子供から成人まですべての人々が改めてコミュニケーションの基本とは何かを考え、「あいさつ」の意味を再確認するよう提案する。	H8
40	おわびとお礼 —心を言葉で伝える—	人にはだれでも間違いも失敗もある。人に思わず迷惑を掛けてしまうことも残念ながらある。そして人の心を傷つけたとき、どのようにその事態を反省し、率直に言葉に出してわびる心をいかに表現するかという言語活動を重点的にもりこんでいる。	H9
41	言葉の使い分け —丁寧な言葉と友だち言葉—	同じ一人の人でもそのときの会話の相手によって丁寧な言葉と親しい言葉を使い分ける。どのような時にどのような相手に対してどのような表現をすればいいのか。相手に対して失礼にならないように場に応じた言葉の使い分けはどうしたらいいのか。	H9
42	伝わっていますかわかりやすい説明	事物の紹介、場所の特定、依頼や釈明のために理由・状況を述べるなど、説明にもいろいろな種類があります。これらの説明を日常生活中できちんと過不足なく行う能力は非常に重要なものです。ドラマを視聴することで、相手に分かりやすく説明することのたいせつさに気づいてもらうことがねらいです。	H11
	解説編わかりやすい説明のために	4人の視聴者がスタジオに集まり、1ドラマ編の視聴後、天の声と称するナレータの進行の下いビデオの内容について話し合うという形式を取っています。	H11